

# 挑戦

飯館村の  
花卉栽培

## 第二の人生にチャレンジ 花卉農家になりました

相馬広域消防本部を退職し再任用でさらに1年間働いてから、スターチスの栽培農家になりました。荒れた農地をこのままにはしたくないと役場に相談し、さまざまな制度が活用できる今ならチャレンジがしやすいと言われ、それなら花をやっ

てみよう。消防の仕事が続けることもできたのですが、その後の第二の人生に、やることがないのもよくない。自分ができることを始めてみようと考え、決めました。  
去年は初めての出荷。一斉に咲いていくので大変でした。多い時には1日に42箱出しました。今年はいまこまめに水の管理をしようと思がけています。昨秋は寒さの対策が不十分で育ち上がらなかったで、温度の管理もきちんとして、秋の出荷も最後までできるようにしたいと思っています。日々勉強ですね。

スターチス  
栽培農家が増えて  
います。

花卉栽培に挑戦して2年目  
須田幸正さん・和枝さん(小宮)



夫婦の協力があってこそこの挑戦。「同じ汗をかくなればきれいな花がいいなと」。

新たな園芸作物スターチスに挑戦  
阿部猛さん・貴美子さん(佐須)



夫婦2人で力を合わせ、まていな仕事をしています。花卉を栽培するハウスにて。

もう一度村で花づくりを  
スターチスの栽培に挑戦

震災前はトルコギキョウとリンドウを栽培していました。寒暖差のある飯館村の花は光沢があると評判でした。

現在はスターチスなどが中心です。除染後に山砂が客土された農地では、以前のような栽培がうまくいかなく、新たにスターチスの栽培を始めることにしました。

避難先の福島市でも花を育てていましたが、県と村の事業を活用してハウスが建てられる

と声をかけてもらい、もう一度村でやってみようと思いましたが、ハウスを建てると同時に家も建て直し、現在に至ります。やってよかったですよ。やっとなければ、すぐに体がなまってしまおうでしょう。スターチスは年寄りにも育てやすい花だと思いますね。80歳までは頑張りたいと思っています。

飯館村の  
花卉栽培

# つなぐ

## JAふくしま未来 小菊の栽培を強化しています

相馬地域と県北地域のJAが合併して「JAふくしま未来」となりました。JAの小菊の栽培は、福島地区が全国でも指折りの産地であり、合併を機に全地区で推進しています。そのため栽培や流通の方法がしっかりできていて、導入がしやすく、新規の方でも取り組みやすいと思います。露地栽培ですので施設を建てる必要もなく、初期投資を低く抑えられるのもポイントです。それぞれの力量に合った栽培面積で始め、経験を重ねながら規模



JAふくしま未来飯館営農センター  
営農指導係 松下 健さん(草野)

を広げていくことをおすすめしています。

小菊は現在、村内では5軒・約80aで栽培されていて、JAが取りまとめて出荷をしています。つぼみがふくらんだら開花する前に出荷します。値が付きやすいお盆や秋のお彼岸を見据えて、出荷のピークは8月から10月になります。

強い品目があると、産地としての評価も上がり、他の花にも注目が集まりやすくなります。震災後は生産者がそれぞれに頑張ってきたところですが、地域に生産者のまとまりができてくると、張り合いが増していくのではないのでしょうか。

「JAふくしま未来」花卉部会では、小菊を基幹作物として、産地化をしております。興味のある方はぜひ一度ご相談ください。



小 菊

齋藤昌良さんの圃場  
(深谷地区)

